

⑥ 加茂湖地区

加茂湖地区舐いプロジェクトの取組について



加茂湖地区舐いプロジェクト協議会
発表者 山本 博文

地域の現状について

■ 地区の水産業を取り巻く現状

加茂湖地区ではマガキ養殖を中心として漁業が営まれ、冬から春にかけて島の内外に出荷が行われている。

加茂湖周辺には観光施設も多く、出荷されたマガキは観光客向けの食材としても活用されており、令和6年に「佐渡島の金山」がユネスコの世界文化遺産にも登録されたことから、観光客の増加とそれに伴う水産物の需要増加が期待されている。

■ 課題

人件費や資材の高騰によりコストが高まっていることや、食害生物の被害及び海水温の上昇等によりマガキの生産が不安定になるなど養殖経営は厳しい状況にあり、生産者の高齢化対策や担い手確保も喫緊の課題となっている。

また、佐渡では観光客はその多くが夏に訪れるが、マガキは春以降の高水温期には産卵により身質が低下するため、出荷が見込めないことから、観光客に提供できないことも観光資源化の足かせとなっている。

加茂湖地区プロジェクト

■ メンバー

- ・加茂湖漁業協同組合 海洋深層水カキ生産者
- ・佐渡観光旅館連盟
- ・美佐渡会
- ・一般社団法人 佐渡観光交流機構
- ・kaneto(レストラン)
- ・佐渡市 農林水産部 農林水産振興課
- ・佐渡市 両津支所

■ オブザーバー

- ・新潟県漁業協同組合連合会 両津支所
- ・新潟県 農林水産部 水産課
- ・新潟県 水産海洋研究所 佐渡水産技術センター
- ・新潟県 佐渡地域振興局 農林水産振興部(水産庁舎)

プロジェクトの方針

■ 取組概要

- ① 海洋深層水施設を活用した周年出荷の取組
- ② 食材、取組の観光資源化

■ 具体的な取組内容

[1年目]

①効率的な飼育が行えるよう深層水環境下での飼育技術の効率化を図る。

②情報発信方法の検討と広報物の作成

[2年目]

①飼育技術に加え効率的な出荷・配送方法について検討し、コスト削減に取り組む

②観光分野、飲食分野と連携した広報活動の実施

[3年目]

①飼育技術、出荷配送方法ともに確立し、取組の定着を図り、出荷店舗の増加を目指す。

②取組内容の評価、検証

プロジェクトの実施

■ 具体的な取組

[1年目]

・深層水環境下での飼育技術の効率化

- ・多段式飼育による効率化を行った。



・情報発信方法の検討と広報物の作成

- ・深層水かきの魅力を紹介するポスターとカードを作成した。



プロジェクトの実施

■ 取組実施結果

[1年目] うまくいった点

多段式飼育の効率化により、水槽使用コストが抑えられた。

一目で分かりやすいポスター、カードを作成することができた。

[1年目] うまくいかなかった点

多段式飼育で効率化できたが、へい死率が増加した。

プロジェクトの実施

■ 具体的な取組

[2年目]

- ・飼育技術に加え効率的な出荷・配送方法について検討し、コスト削減に取り組む

・へい死の対策と配送試験を行った。

- ・観光分野、飲食分野と連携した広報活動の実施

- ・旅館、飲食店に注文案内を送付した。
- ・旅館に試験販売を行った。
- ・イベントでの対面販売を行った。



プロジェクトの実施

■ 取組実施結果

[2年目] うまくいった点

- ・旅館で1件の注文があった。
- ・イベントでの販売は盛況で、夏の新たな水産物としての可能性が見出させた。

[2年目] うまくいかなかった点

- ・へい死をゼロにすることはできず、時間経過とともに保管数が減少してしまった。
- ・旅館、飲食店の注文が1件のみであった。
→なぜ注文しなかったのか確認したい

プロジェクトの今後の展開

■ 夏期イベントでの販売をメインに展開

島内で夏期の水産物は少なく、イベント客の需要が高いため、夏期のイベントをメインに直接販売する予定。併せて、ポスター、カードを配布する。

- 焼きガキでの直接販売は利益率が高い。
- 佐渡島内での知名度向上に寄与する。

引き続き、旅館・飲食店にも注文案内を行う。

